

こども環境学会 2012 年大会（仙台） 2012 年 4 月 20 日（金）～22 日（日）

報 告 書

平成 24 年 5 月 11 日

公益社団法人こども環境学会

代表理事 仙田満
会長 小澤紀美子
実行委員長 新田新一郎
実行委員会事務局長 松村弘美

【1】概要

- タイトル：こども環境学会 2012 年大会（仙台）
- 大会テーマ：「復興再生：子ども参画による子どもに優しいまちづくり」
- 期日：平成 23 年 4 月 20 日（金）～22 日（日）
- 会場：仙台国際センター（〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地）ほか

■大会主旨・目的：

「こども環境学会」は学問の領域を超えて、こどもを取り巻く環境＝「こどもの環境」の問題に関心や係わりのある研究者や実践者が集い、共に研究し、提言をし、実践してゆくなかで、こどもの成育に寄与する環境科学を確立し、こどものためのよりよい環境を実現することを目的としている。

2011 年（東京）大会「こどもの生活を支える」は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響で中止とし、4 月に緊急支援集会を開催し、「東日本大震災支援にかかる行動計画」を策定し、子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生を目指して、学会としての復興支援活動を行ってきました。

9 年目を迎える 2012 年度には、この 1 年間の東日本大震災被災地に対する復興支援活動を総括する意味も含めて、大会およびシンポジウムを仙台市で開催いたしました。テーマを「復興再生：子ども参画による子どもに優しいまちづくり」としました。子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生をめざして、子どもの成育環境の視点に立った東日本大震災からの復興のあり方を考えることを目的と掲げました。

■内容（概要）：

【4 月 20 日（金）】

エクスカージョン

被災地見学ツアー①：被災地の子どもの現場見学ツアー

被災地見学ツアー②：被災地の建築見学ツアー（仮設住宅など）

子どもの現場見学ツアー：仙台市の児童館、子育て支援センターなど

【4 月 21 日（土）】

開会式、オープニングセレモニー

国際シンポジウム①

・パネルディスカッション「子どもの参画による被災地復興の可能性」

特別分科会：「子ども未来人サミット ―アクションプラン―」

分科会：「被災地の文化を生かす子どものまちづくり」

ワークショップ：「東北の民舞WS（太鼓・横笛・踊り体験）」

こども参加のワークショップ：「私のお店バ＊ザール」 from せんだい・こどものまち」

ポスターセッション、総会／学会賞授賞式、交流会

【4月22日（日）】

分科会：「こどもにやさしい復興計画のあり方とその課題」。「ワークショップの意義を考える」、「復興に向けた教育からこどもたちの未来を考える」、「デザインで支える子どもたちの震災復興」、「被災地で見た、遊び場づくりの意義」、「被災地の子どもの遊び環境の現状」、「建築と子どもたちワークショップ」、「東北の子どもの現場から見た子育て環境」、「歴史や景観の継承をこどもたちの手で」

ワークショップ：「齋正弘さんの宮城県美術館探険ワークショップ」、「フィリピンPETA演劇ワークショップ」

こども参加のワークショップ：「西公園プレーパーク」

ポスターセッション、学会賞受賞者記念講演会、表彰式・閉会式

■主催：公益社団法人こども環境学会、こども環境学会2012年大会（仙台）実行委員会（委員長：新田新一郎）

■共催：仙台市、仙田市子ども会連合会、子どもの笑顔元気プロジェクト

■後援：（順不同）

内閣府、国土交通省、文部科学省、環境省、厚生労働省、日本学術会議、建築研究所、科学技術振興機構、日本ユニセフ協会、日本ユネスコ協会連盟、日本こどもNPOセンター、IPA日本支部、日本建築学会、日本環境教育学会、日本都市計画学会、日本造園学会、日本発達心理学会、日本保育学会、日本子ども社会学会、人間・環境学会、日本感性工学会、国際交通安全学会、日本小児保健協会、聖徳大学、チャイルドライン支援センター、日本公園緑地協会、公園緑地管理財団、都市緑化基金、都市緑化技術開発機構、日本建築家協会、都市計画コンサルタント協会、日本造園建設業協会、日本公園施設業協会、全国建設室内工事業協会（以上）

※公益財団法人 仙台観光コンベンション協会 より補助金をいただいております。

■参加費等

大会参加費

正会員、団体会員：5,000円（当日参加は、5,500円）

学生会員、一般学生：3,000円（当日参加は、3,500円）

一般（仙台市民以外）：6,000円（当日参加は、6,500円）

仙台市民、障害者、こども（高校生以下）：無料（但し資料代別途）

エクスカーション参加費

①3,000円 および、②2,000円

■参加者数

全参加者数：755名

登録参加者数：513名、その他スタッフ+ボランティアなど：242名（大人172名、子ども：70名）

正会員、団体会員：114名、学生：47名、関係団体など：112名、

一般：36名、子ども：4名

仙台市民：200名（大人109名、子ども91名）

■事務局：

こども環境学会事務局

〒106-0041 東京都港区麻布台3-2-12

TEL: 03-6441-0564 FAX: 03-6441-0563 MAIL: info@children-environment.org

<http://www.children-env.org/>

こども環境学会 2012 年大会（仙台）実行委員会事務局

〒981-0931 宮城県仙台市青葉区北山 2-1-16 セントラル北山 1F （有）プランニング開 内

TEL：022-276-8840、FAX：022-272-7696、Mail：kai2@alpha.ocn.ne.jp

【会場風景】



国際シンポジウム



特別分科会-子ども未来人サミット



ポスターセッション



分科会

『優秀ポスター発表賞』受賞者（報告）

織田（優秀ポスター発表賞審査委員長）

今大会における優秀ポスター発表賞は、22名(2名欠)の理事審査員からなる審査委員会で以下の通り6点を決定し、大会最終日に表彰した。

科学的、数学的視点を引き出す玩具作りワークショップ実践 ー「カオス」と「振り子」の原理を組み合わせた玩具作りー	渋谷寿ほか
ごっこ遊び遊具「まち遊びキット」の導入による社会的相互作用の評価	佐藤朝美ほか
歴史的建造物を題材とした児童と地域をつなぐデザイン教育の有効性と課題	馬場たまきほか
中山間地域における児童が関わった人に対する印象の特質 ー児童の施設外活動よりみた生活空間イメージの分析と課題に関する研究その3ー	青木一郎ほか
保護者による小学生児童の生活環境評価	千代章一郎ほか
新潟県 Y 保育園における新園舎の設計プロセスと園児、保育士、保護者の参加手法 について	近藤ふみほか

2012年子ども環境学会大会（仙台）
「復興再生：こどもの参画—こどもにやさしいまちづくり—」
大会提言

2012年5月

子ども環境学会2012年大会開催を終えて6つの提言をまとめました。いずれも全体シンポジウムや各分科会などで話され、議論された事柄であることはもとより、大会テーマである「復興再生 子どもの参画—こどもにやさしいまちづくり—」へ向けて、まっすぐに突き進むためのロードマップになる内容であると思っています。被災地は道も建物もそこに暮らす子どもたちの暮らしもズタズタに引き裂かれてしまいました。この提言を頼りに少しでもより良い方向へ進むことを願ってやみません。

大会実行委員長 新田新一郎

1. 一人のアイデアからはじまる

（自分で手を挙げることから連携へ）

英国での荒廃した地域の問題を考えた一人の女性が手を挙げたことから連携したまちづくりにつながったという大会基調講演(Helen Woolley)の話と、宮城県から始まった中高校生ジュニアリーダーのモットーの「自発的に」とが重なりました。震災直後の避難活動、避難生活において中高校生が自分たちも被災したのにボランティア活動への活躍が目立ったのは日頃の活動で誰かが言い出すと、「そうだろう」という仲間が居るからです。周りの空気ばかり気にして、最初から諦めて何もしないよりも、考えたことを言う、それがいいアイデアだと思う者が仲間に連なり、動きになります。それはジュニアリーダーには慣れたことかも知れませんが、他の子どもたちにもそんな自発的な動きが広がってほしいと思います。そして子どもだけでなく、子どもたちの言い分にそうだと思った大人も自発的に子どもたちと連携して、子どもたちの夢を実現することに動いてほしいと願っています。

2 こどもの役割（意見を言う） 大人の役割（子どもの声を聴く）

多くの大切なものを奪った自然の猛威の前に、人間の力の無力さを感じた子どもたちはしなやかな感性で自然と共生・共存していこうとしています。10歳で子どもが被災した場合10年後に復興の「かたち」が見えてきた時は、子どもは成人に達しています。子どもたちは「声なき未来世代」ではなく、大人が子どもの声（意見）を聴いてこなかっただけです。子どもたちは地域の特性を活かした生業が子どもたちの命をつなぎ、地域の方たちとのきずなを深めてきたことを生活知（暗黙知）としてしっかり理解しています。震災復興には、未来への希望を語れるように、子どもたちが素直に意見をいえる場と子どもコミッショナー（子ども代理人）を設置して、子どもたちの声を聴くのが大人の役割です。

3. 計画から実行へ

どんなに立派な計画を立てたとしても実行が伴わない計画は、それこそ絵にかいた餅になってしまいます。ともすると計画を立てた段階で安心してしまいそこから何も進まない現状が多々見られます。計画を立てることが目的ではなく、どんな小さな事柄でも計画に基づき具体的に実行してはじめて意味があるのです。また、計画したことと実行したことにズレが生じていないか計画を実行しながら絶えず

ィードバックすることが大切です。しかし逆に実行してみたとき、そもそも計画したことが間違っていたと気づいたときには、計画を変更する柔軟性も大切です。すべては、「何を求めてどんな形で何に役立てようとするのか」という明確なゴールへ向かって試行錯誤しながら柔軟に対応して実行していく必要があります。

4. これまで育まれてきた地域資源を見出し、環境価値を高める

復興まちづくりはゼロからのスタートですので、合意形成のスピードが求められる一方で、課題が複雑で意見や立場も非常に多様なため、目標の明確化が重要です。地域で育まれた資源を見出し、地域の環境価値を被災前よりも高めていくことが、『こどもにやさしい復興まちづくり』を進める上での大きな目標になると考えます。こどもたちが参画することで、親や周囲の大人たちと一緒に、地域の自然や人あるいは行事や場所等という地域資源について学び、社会体験を重ねて共有化していくことが可能となります。こどもたちは活動を通じて、地域に育てられたという思いや自分の地域での役割を自覚し、ひいてはそれが地域力を高め、地域の環境価値を持続的に発展させていく原動力となっていくと思われれます。復興まちづくりへのこどもたちの参画の最も重要な意義がそこにあると思われれます。

5. たくましく生き抜く力をもつ

災害の後、こどもたちは現状を理解するあまりに、悲しさや苦しさ、つらさを表現しにくい状況になっています。安心し、思いきり自身の感情を表現できる場が必要です。このこどもたちをしっかりと受け止める大人がネットワーク化し、社会全体で支えていく体制づくりがなされなくてはなりません。自立という言葉がかえって孤立化を招く今、ひととひとがつながる中で、それぞれの持ち味を發揮しながら支え合うことが真の自立なのだとして大人もこどもも理解し合い、お互いにたくましく生き抜く力をつけていくことが望まれます。

6. こどもが「今」を生きる時間を大切にす

子どもにとって今の時間が大切です。子どもには時間は待つてはくれません。今のことが未来の大切な知恵となります。子どもは今の感性で多くのことを獲得します。どんな苦境にあろうとも、子どもは今遊ばなくてはなりません。子どもは今学ばなくてはなりません。次の今は前の今とは違っています。今の時間はあっという間に過ぎ去っていきます。ですから、大人は、こどもが「今」を生きる時間を大切に、こどもの今の環境を整えることを先延ばしにしてはなりません。